

①	評価領域	特別活動部
---	------	-------

目標の設定（Plan）

②	重点目標	秋田西高校生としての自覚を持ち、HR活動や生徒会活動、学校行事、部活動などを通して、今後の社会の変化に対応できる有益な人材として自立するために必要な資質・能力を養う。
③	現 状	物事を具現化するための発想力や行動力がいま一つ乏しい生徒の実態がある。
④	具体的な目標	教師が生徒の各種活動を援助しながらも、必要以上に手をかけずに考えさせる機会を意図的に提供することで、生徒が自らの考えで行動できる力を伸長する。
⑤	目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス全体で学校行事に主体的に取り組める環境をつくる。</li> <li>・生徒会執行部と各種委員会の連携を深めて生徒の主体的な活動を促す。</li> <li>・生徒が積極的に参加できるよう、行事等の企画を工夫する。</li> <li>・部活動のレベル向上と活性化を図る。</li> <li>・部活動数の精選の問題について、長期的な観点で検討を行う。</li> </ul>

実践（Do）

⑥	具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会とスポーツ大会をまとめて開催して業務の合理化を図った。</li> <li>・地域懇談会では、教員のオブザーバー参加と、事後の全職員への情報提供によって本校の教育活動に資するよう工夫を加えた。</li> <li>・文化祭はフルサイズ開催で内容の細部に工夫を加えながら実施した。</li> <li>・柔道部の廃部に向けて、来年の生徒総会での承認を目指して手続きを進めている。</li> </ul>
⑦	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事に関しては、生徒会執行部と特活部職員が中心となって体育科とも連携しながら企画運営を行い概ね目標は達成できたと考える。</li> <li>・部活動の成績の伸びは部にまちまちだが全体で見ると横ばいである。</li> </ul>

自己評価（Check）

評価基準	<p>A：具体的な活動が示され目標を達成できた。</p> <p>B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。</p> <p>C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。</p>
------	--

⑧	自己評価	根 拠	「生徒が自らの考えで行動できる力を伸長する」面で、際立った成果があげることができなかった。
⑨	学校関係者評価と意見	意 見	<p>A</p> <p>近隣の町内会や他校種の学校と交流をさらに深め、地域に愛される学校を目指してほしい。</p> <p>難しいことだが、主体的な資質・能力向上に引き続き取り組んで欲しい。</p>

改善した実践（Action）

⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>地域との交流は、行事のスクラップビルドの兼ね合いで機会確保が難しい面があるが、本校の特色でもあるため分掌の枠を超えて学校全体での取組みを模索したい。</p> <p>生徒会活動、学校行事、部活動など様々な場面で、適切かつ適度な指導助言を加えながら生徒が自ら考えて行動する機会を増やすことで、引き続き主体性を育てていきたい。</p>
---	-----------------------	---